第６学年２組　特別の教科　道徳学習指導案

令和８年１１月２０日（金）　第５校時　６年２組教室　指導者　伊藤　美保

１　主題名　　家族の幸せ（C家族愛、家庭生活の充実）

（教材名：初めてのアンカー　出典：生きる力６【日本文教出版】）

２　目　標

家族が子どもの幸せを強く願ってくれていることを当然とせず、自分も家族の幸せを願うことが家族の一員として大切であることを理解し、家族の幸せを考えていこうとする心情を育てる。

３　授業計画

【ねらいとする道徳的価値について】

家庭は、生活を共にする家族によって営まれる最も小さな社会集団である。家庭の中には家族が存在し、家族は最も身近な人間関係の基盤であり、児童の人格形成の基盤となる。家庭での生活は、児童に大きな影響力を与える。そして、自分の成長は、家族の願いや愛情、努力によるものであると言える。そこには利害や損得は存在せず、見返りを求めない家族からの無償の愛が存在する。

私たちが、日々の生活を何気なく送ることができるのは、家族からの愛情や支えによって、家族が幸せでいられるからである。しかし私たちは、家族一人一人の思いや幸せにまで思いをもつことはなかなか容易ではない。

そこで、家族がそれぞれに思いがあり、互いが家族を大切に思う気持ちがあってこそ、家族が幸せでいることできることに気付き、支え合う家族の一員として自分にできることを考えられるようにしたい。

【学習前の児童の姿】

本学級の子どもたちは、授業参観や行事等に保護者が来てくれることを喜び、励みに張り切って授業に臨む姿が見られる。一方、授業参観の後には、「別に来なくてもよかった」などと言う言葉も聞かれ、保護者が来てくれることを当たり前だと感じている児童が見られる。その他にも、塾や習い事の送迎をしてもらうことを当たり前に思い、家族の思いを考えようとしていない児童も見られる。そして、自分のことを思ってくれていることや支えていてくれることを当たり前に思っている児童が多い。本教材を通して、家族一人一人の立場に立って家族の思いや願いを考え、家族に対して自分ができることを行動しようという思いを深めていけるようにしたい。

〈教材のこんな魅力〉【1時間完了】

・本教材は、運動会で初めてアンカーに選ばれたまきと、漁師である父との関わりを通して、家族の愛情や支えについて考えることのできる教材である。
・父に応援してもらいたいという自分の願いと、家族のために働く父の願いとの違いに気付くことで、家族一人一人の立場や思いについて考えることができる。
・まきが父の思いを理解し、自分の考えを見つめ直していく姿から、家族の一員として自分にできることは何かを考えることができる。

〈こんな手だてで〉

・運動会で初めてアンカーに選ばれ、父に見てもらいたいと強く願うまきの気持ちに共感することで、家族に認めてもらいたいという思いを捉えることができるようにする。
・父が運動会に来られない理由を知り、家族のために働き続ける父の思い、姿について考えることで、自分は自分の思いしか考えていなかったことに気付くことができる。
・まきの父に対する思いの変容を通して、家族の幸せは誰か一人がつくるものではなく、家族一人一人が相手を思いやり、自分の役割を果たすことで生まれるものであることを考えることができるようにする。

【学習後の児童に期待する姿】

・家族にしてもらうことは当たり前ではないと気付き、感謝の気持ちをもとうとする意欲を高める。
・家族には家族一人一人の役割や思いがあり、家族の思いを想像することを通して、自分自身が家族の一員としてできることをすることが家族の幸せにつながると気付き、自分自身を振り返っている。

４　本時の指導

（1）指導の構想

指導に当たっては、導入で家族の幸せと聞いてどんな様子を思い浮かべるかを問う。家族の幸せである状態を共有する。その幸せは、誰がどうつくるのかという本時のねらいへの動機づけとしたい。

展開では、初めてアンカーに選ばれ、父に自分の活躍を見てもらいたいと願うが、その願いはかなわず、父が運動会に来られないことを知ったまきの気持ちを考え、自分の思いだけに目が向いていることを押さえる。

中心発問では、「お父さん、待って―。」と父を追いかけるまきの思いについて考え、話し合う。家族のことを思う父の気持ちに気付き、自分のことしか考えていなかったまきが、家族のために働く父への感謝や申し訳なさを感じるようになったことに迫りたい。そこから、家族の幸せは互いを思いやる気持ちによって支えられていることについて考えを深めていきたい。その後、導入で提示した「家族の幸せは誰がどうつくるのか」について改めて考える時間をとり、授業を通して、自分の考えの広がりや深まりを感じられるようにする。

（2）準　備　　（教師）挿絵

（3）学習過程

学習活動（時間）	予想される児童の反応			※教師の支援
1　家族の幸せを考える。（3） 2　めあてを確認し、めあてに対する考えを共有する。（1）	家族の幸せと聞くとどんな様子を思い浮かべるかな			
	・家族みんなが元気なとき。 ・家族で出かけるとき。	・みんなで一緒にご飯を食べる。	・笑顔で過ごしているとき。	※笑顔、一緒に過ごすなどの言葉を板書する。 ※「幸せは自然にできるものかな」と投げかけ、教材につなげる。
	めあて　家族の幸せは誰がどうつくるのかな			
	・お金があれば幸せになる。	・お父さんやお母さんがつくる。	・家族みんなで協力してつくる。	
3　教材文を読む。（4） 4　父が来ることができないと分かったときのまきの気持ちを考える。（7）	涙が頬を伝って落ちていったときのまきはどんなことを思っているのだろう			
	・急に来られないなんて、ひどい。来るって言っていたのに。	・最後の運動会だったのに悲しい。	・アンカーで走る姿をお父さんに見せたかった。	※なぜ父に来てほしいと思っているのかを問い返し、選ばれてうれしい気持ちのまきを押さえる。 ※父に対する思いを問うことで、父が来られなくなってしまったことへの不満を共有する。
5　胸がチクリと痛んだまきが考えたことについて考える。（7）	祖母に、「ちがうの、これは、あしたの、、、」と答えかけて胸がチクリと痛んだまきはどんなことを考えただろう			
	・おばあちゃんの言うとおりかもしれない。	・自分のことしか考えていなかった。	・雨が降ると漁が大変になるとは全く考えていなかった。	※祖母の父に対する思いにも触れることで、祖母はまきのことも父のことも大切にしていることを押さえる。
6　父を追いかけたまきの思いを考える。（10）	「お父さん、待って―。」と追いかけたまきは何を考えていただろう			
	・お父さん、ごめんなさい。自分のことしか考えていなかった。お父さんのことも考える。	・お父さんは責任をもって働いている。 ・仕事に行くのは、自分たちのためだったんだ。 ・お父さんも悲しいはずだ。 ・お父さんだって、見に来たかったはずだ。	・自分は自分のことだけを考えるのではなく、自分も家族のことを考えなければいけない。 ・てるてるぼうずを渡して、お父さんが雨に降られず安全に漁に出られるようにしたい。	※ペアで互いの考えを聴き合い、自分の考えと比べることで、自分の考えに自信をもったり、新たに考えをもてたりできるようにする。 【キーワードとなる児童の発言】「お父さんのことを考える」 【キーワードに対する切り返しの発問】「お父さんのことをどう考えていたのかな」 ※父のことをどう考えているかを問うことで、多様な意見に触れることができるようにする。
7　家族の幸せについて考える。（8）	家族の幸せは誰がどうつくるのかな			
	・いつもいつも何かをしてもらうばかりでは、家族みんなが幸せとは言えない。	・互いにどんな気持ちでいるかを想像することが大事で、家族の幸せはみんながつくるものだと思う。	・互いを分かろうとすることも家族の幸せにつながると思う。自分にできることを考えることもみんなの幸せにつながる。	※めあてに戻ることで、この1時間で「家族の幸せ」に対する考えが深まり、広がったことをみんなで確認できるようにする。
8　振り返り（5）	今日の授業を通して、新しく気付いたことや学んだことを振り返りましょう			
	・家族の幸せは、お父さんやお母さんがつくるものだと思っていたが、自分も家族の一員だから自分も幸せをつくる一人だと思った。	・自分は家族にしてもらうことが当たり前と思っていたが、家族にもそれぞれ思いや願いがあることが分かった。	・自分の家族の一員として、家族の思いを想像し、自分にできることを考え、やっていきたい。	※自分もまた家族の思いについて考えて、行動しようとする意欲を高める。

（4）評　価

・家族にしてもらうことを当然とせず、家族一人一人の思いの視点から、家族の幸せを自分との関わりで考えようとしているか。（発言・道徳ノート）